

# 児童生徒の資質・能力を育成するための 「スクリーンを使った板書の在り方」を学ぶ

B:校内研修Ⅱ型(課題設定型の研修)

こんな先生方の姿が生まれました!

- 板書する内容を吟味し、そのための発問の内容を考える姿が増えた。
- 積極的にスクリーンを使った授業を展開する姿が増えた。

## 放課後の教室で、研修を実施

ICT活用コーディネーターが中心となり、  
提案授業をもとに、「板書の在り方」の研修を行う

- ・スクリーンを活用したときの板書の在り方に困り感をもっている教師を中心に、自由参加型の研修を行う。
- ・どのような困り感をもっているかを共有し、ポイントを確認しながら、講義型の研修を行う。
- ・自分のこれまで実践してきた授業の中で、ポイントを意識した板書の在り方について考える。



### 「板書の在り方」研修のポイント

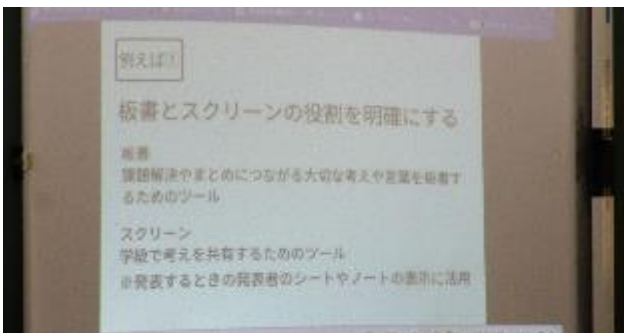
- 事前に資料(プレゼン)を準備し、「板書の在り方」の考え方を整理しておく。
- 実際に提案授業を行いながら、大切な場面ごとにポイント説明を行い進めていく。

## 「板書の在り方」の研修を終えて

スクリーンを積極的に活用し、児童の理解を深めるための授業づくりを行おうという意識向上につながる

### <研修参加者の声>

- ・これまでは、板書する場所が狭くなるから困っていたけど、何を書くか明確にすることで、板書をすっきりさせることができるな。
- ・板書本来の目的は何かを再確認できた。
- ・スクリーンと板書の使い分けは一つではないから、いろいろな使い分けを考えていくことが大切だな。
- ・板書の在り方について考えると同時に、ノートについてもどのように使わせていくかを明確にしないとイケないな。
- ・「スクリーンの活用=タブレット」だけど、何でも活用するのではなく、効果的な活用であるためのベストミックスを考えることが大切だな。



### ICT活用コーディネーターの助言のポイント

- 自分自身の実践事例を基に、あくまでも一つの事例という位置付けのもと提案し、職員間で共有する。
- いくつかの実践事例を示すことでイメージをもてるようにし、職員自身の授業において実践できるようにする。